

がん医療フォーラム 2016 第10回 気仙がんを学ぶ市民講座

プログラム



2016年11月3日（木・祝） 13:00～16:00

【あいさつ】岩渕 正之（気仙医師会 理事）

13:05

【第1部】基調講演

がん患者さんご家族を支える情報づくりと地域づくり

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授）

気仙の在宅緩和ケアの現場から

岩渕 正之（岩渕内科 院長 [大船渡市]）

入澤 美紀子（医療法人勝久会 松原クリニック [陸前高田市] 訪問診療部 看護部長）

14:00 （休憩）

14:15

【第2部】フォーラム がん患者さんご家族の療養を在宅で、地域で支える

モデレーター：渡邊 清高・岩渕 正之

1.熊谷 優志（大船渡市国民健康保険歯科診療所 [大船渡市]）

2.白井 秀徳（そうごう薬局高田店薬局長 [陸前高田市]）

3.阿部 遼介（岩手県立大船渡病院 医療ソーシャルワーカー）

4.田畑 俊之（JAおおふなと介護支援センター [大船渡市]）ケアマネジャー

5.安達 健太郎（介護老人保健施設 松原苑 [陸前高田市] 理学療法士）

ディスカッション

県立大船渡病院 がん患者・家族サロン「よりどころ」のお知らせ

【総括・まとめ】伊藤 達朗（岩手県立大船渡病院 院長）

16:00 終了 アンケートにご協力ください

地域におけるがん患者の療養支援情報 普及と活用プロジェクト

<http://homecare.umin.jp/>

がん患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報をまとめました。これまでのがん医療フォーラムでいただいた声、在宅での療養をよりよくしたい患者さん、ご家族の意見や提案をまとめる形でつくられています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、がん患者さんを支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。

がんの在宅療養



地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト



「在宅療養ガイド」制作と プロジェクト創設にいたるまで



渡邊 清高 さん

(帝京大学医学部内科学講座 准教授/腫瘍内科・がん情報)

公益財団法人 正力厚生会

<http://shourikikouseikai.or.jp/>

正力厚生会は、読売新聞東京本社からの寄付金などをもとに「がん患者さんとそのご家族を支援する」事業活動を行っています。主な助成実績は次の通りです。

〔がん患者団体への助成〕

がん患者団体による講演会開催や情報発信のためのサイト構築などの事業に対し、上限50万円を贈ります。2007年度からこれまでに、延べ211団体に助成してまいりました。詳細は正力厚生会の公式サイトをご覧ください。

〔医療機関への助成〕

当フォーラムにかかわるプロジェクト（2012年度から）のほか、▽国立がん研究センター相談員養成講座（2006年度からの5か年）▽がん研究会有明病院データベース作成（同）▽医療機関による「がん」がテーマの小冊子作成（2010年度までに計10冊）▽東京大学医学部附属病院との共催シンポジウム▽静岡県立静岡がんセンター「Web版がんよろず相談Q&A」構築—があります。

〔読響ハートフルコンサート〕

QOL（生活の質）向上の一環として、2007年度から読売日本交響楽団のメンバーが全国のがん診療連携拠点病院などを訪問。弦楽四重奏を中心に患者さんやご家族の皆さん、医療従事者の皆様に質の高い音楽を楽しんでいただいています。これまで60医療機関で開催。2015年3月の山口公演で、全国47都道府県を一巡、現在二巡目に入っています。